

夢気球だより

「夢気球だより」編集部 発行
 〒610-0121
 城陽市寺田西ノ口7-4西邦ビル2階
 城陽市国際交流協会内
 電話 0774-57-0713



ぱれつとJOYO委託事業 夢気球「国際サロン」

モロッコの食文化をとおしての異文化理解

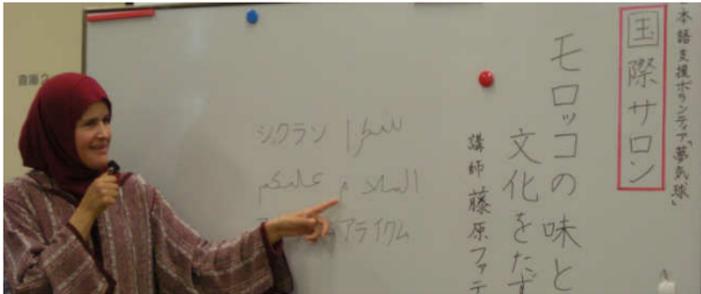
国際サロンは、夢気球の活動の一つとして国際交流協会内で昨年より実施してきましたが、新たに、夢気球が男女共同参画支援センター「ぱれつとJOYO」と共催で11月25日(日)に実施しました。ぱれつとでは、すでに日本語教室を開講していますが、多文化共生社会の醸成をはかるため広く市民に提供できる機会と位置付けて、男女共同参画の視点から異文化理解を推進する事業として、今年度初めて企画し委託されたものです。

夢気球の学習者で、担当の渋谷さんに、前日準備から当日の送迎も含めて、大変ご苦労頂きました。運営委員は、午前10時半に集合し、スクリーンやガスコンロ・食器などを確認し、テーブルは、モロッコの五つの都市名(カサブランカ・ラバト・マケラシュ・タンジェ・フェス)のグループに設置し、夢気球運営委員がサポートができるように、7名程度のなかに参加し29名の方(内訳、学習者4、夢気球15、市民等9名)に、参加頂きました。

当日都合により、定員の25名はオーバーする者の方(内訳、学習者4、夢気球15、市民等9名)に、参加頂きました。11時30分から渋谷さんの司会で始まり、スクリーンにはテレビで取り上げられたモロッコの映像がながれだすと、フアティマさんからの自己紹介、各テーブルをまわっての料理紹介の時間をとっていただきました。フアティマさんに、早朝から人数分以上に準備をして頂いた料理は鶏肉、人参、ジャガイモ、ブロッコリーなどの野菜を材料にした代表的なタジン鍋と牛肉・豆類をベースにしたスープや、手づくりのパンで、テーブルごとにガスコンロを設置して鍋



モロッコに興味しんしん



突然、アラビア語講座



ごちそうさまでした



美味しそう



タジン鍋、準備中

投稿先

nicityama0323
 @gaia.eonet.ne.jp

(阪部記)

の蒸し加減や味付け具合もどうかなど、今回初めての方からは「想像以上に美味しい」、以前食した方からは「塩加減がちがって美味しい」など、参加者からは、モロッコ料理に舌鼓しながら、各テーブルで和気あいあいと交流をはかっていたいただきました。食事の間には、フアティマさんのかわいいお子さんお二人に、アラビア文字による挨拶の仕方や、村上さんのモロッコ紹介、本日参加者の自己紹介や感想、最後に、杉島代表から夢気球の活動意義などの話があり閉会しました。

未来を創る者たちへ

～城陽高校TAGバンクに参加して～

TAGとは、Think(考える・知る) Act(行動する・対話する) Gain(身につける・獲得する) こと。城陽高校の生徒の成長を応援する保護者、卒業生、地域の方々、高校生が働くことや、社会について対話を通じて城陽高校生が自ら考え行動する力を養う事を目的とした事業のことです。

今回、夢気球会員の杉島佳子さんが講師として参加されました。



高校生と

(編集部 西山記)

今年度、府教委から「学力向上フロンティア校」の指定を受けた府立城陽高校が社会人から登録者を募り「TAGバンク・どれ道学習」を設立しました。私も講師の一人として「働くこと、生きること」について高校生と話す機会を得ました。

まずは体験談として「赤面症」で自分の思いや考えを人前で話せなくて自信が持てなかつた小学生時代。精神的な弱さを克服したいと中学で始めた部活のテニス、高校一年になって高校国体京都府予選準決勝まで進んだこと、生徒会役員に立候補し全校生徒600人の前で選挙演説をしたのが2年の春。自分の殻を脱いでいく挑戦は長年の赤面症を克服する力となり自信に繋が

今年度、府教委から「学力向上フロンティア校」の指定を受けた府立城陽高校が社会人から登録者を募り「TAGバンク・どれ道学習」を設立しました。私も講師の一人として「働くこと、生きること」について高校生と話す機会を得ました。

まずは体験談として「赤面症」で自分の思いや考えを人前で話せなくて自信が持てなかつた小学生時代。精神的な弱さを克服したいと中学で始めた部活のテニス、高校一年になって高校国体京都府予選準決勝まで進んだこと、生徒会役員に立候補し全校生徒600人の前で選挙演説をしたのが2年の春。自分の殻を脱いでいく挑戦は長年の赤面症を克服する力となり自信に繋が

城陽市国際交流協会の募集中で8人の外国人が災害弱者として参加しました。皆さんが協会で集まり、そこで京都府国際センター職員、登録サポーター、日本語支援ボランティアと協会の職員たちがすでに待っていました。協会が簡単な説明を受けてから、協会職員大久保さんを先頭に市立

外国人から見た防災訓練

寺田南小学校のグラウンドへ出発。私は外国人として、また中国語通訳として同行しました。中国語通訳としてもこの様な防災訓練は初めてです。グラウンドに入ると、驚いたのは、すでに沢山な地域住民(約300人)が待機していたことです。私たち国際交流協会も一つグループとして参加。会場では一般の地域住民と



正しいリレーで

一緒に消火器訓練、煙ハウス体験、起震車による震度体験、体験心肺蘇生法による消防車が入らない時、伝言棒を使った消防法を使うのかなど、各コーナーを回りました。参加者の中で二回目の方もいました。経験者とは言え、やはり実際の体験してみると、地震が起きた時の怖さが分かります。消火器を手にして簡単な説明を受けてから、協会職員大久保さんを先頭に市立寺田南小学校のグラウンドへ出発。私は外国人として、また中国語通訳として同行しました。中国語通訳としてもこの様な防災訓練は初めてです。グラウンドに入ると、驚いたのは、すでに沢山な地域住民(約300人)が待機していたことです。私たち国際交流協会も一つグループとして参加。会場では一般の地域住民と

(国際交流協会中国語講師 薛苗記)

夢気球のメンバーの皆さんは、はじめまして。私は10月末からリ・クアンイン君の日本語支援を始めました。村田美子と申します。城陽に住み始めて40年になります。最近やと地域のことを考えるゆとりが生まれました。遅まきながら少しでも役に立つことが出来ればと思っています。40年間、高校や大学の教壇に立ってきまして。専門は英語、日本語教授法、異文化間コミュニケーションです。趣味はガーデニングと旅、それに大の猫好きです。下手ながらバラを有機農法で育てています。オールドローズで花屋に並ばない原種ばかりですが、とても良い香りがします。毎年5月にはオープン・ガーデンをします。

(村田美子記)

新しい仲間の紹介

村田美子さん



(杉島佳子記)

知層はやがて自分のやり方、考え方、と言う巧い言葉で表現できないという事です。近年急激に進歩した通信手段やIT技術の社会環境の中で他人から与えられる情報源に頼るあまり自分で考える力や想像力が弱まっているように感じます。思考力の燃料となる知識や経験を多く身に付ける努力や読書の必要性を知ってもらいたいとアナログ世代の私は思いました。